平成30年度 学校法人　産業技術学園　北海道ハイテクノロジー専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果および改善方策

学校関係者評価員会実施日　：　平成30年7月20日　　14時～16時

評価委員　：　（順不同　　委員長◎）　◎足立晋　　早坂貴敏　　松本耕二　　真鍋淳　　大場真哉　　佐藤忠寿　　松本晴美

平成30年度自己点検自己評価（平成29年4月1日～平成30年3月31日）による

【理念・運営目標】	北海道ハイテクノロジー専門学校は、職業教育を行う高等教育機関として、職業人教育を通じて社会に貢献するミッションを持ち、3つの建学の理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を通じ業界に直結した職業人の育成をするとともに、4つの信頼「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを目指している。また職業教育の中心機関として、新たな知識・技術・人間性を創造し伝承・発展させ、人材を育成することを通じて社会の進歩と社会の発展に貢献するという使命をもっている。北海道内において「道内最大の総合専門学校として、強い教育、強い就職で学生、業界の夢をかなえ、コア人材を養成し業界に輩出する『道内No.1の職業人教育機関』を目指し、少子高齢化社会の進行や東南アジア地域からの留学生の増加を大きな社会背景と捉え、その変化の中で業界が必要とする新たな人材像を明確化してカリキュラムに反映させグローバルな人材育成に尽力することを目的とします。
【組織目的】	北海道ハイテクノロジー専門学校は 『新しいこと、はじめよう！』を実現するため、産官学協同教育を柱とし、産業界及び地域と共に学ぶ教育環境のもと、最先端の学びで自分の未来に挑戦するプロを養成します。
【運営方針】	『産官学協同教育』の質向上を図り、ハイテクブランド確立 1．共同研究、イベント企画運営など、企業課題への取り組みや、医療現場をリアルに体験できる、シミュレーションセンターでの模擬患者実習を実現する。 2．自校の強みを整備し、受験生への本校独自の価値を提供出来るポジショニングで広報を展開する。 3．地域・業界との連携を強化し、新しい情報・ニーズを常に取り入れ、学科イノベーションや新専攻の設置などがスピード感をもって出来る組織にする。

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H29年度学校関係者評価（平均）【3段階評点】3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度（H29）自己評価【3段階評点】3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度学校関係者評価（平均）【3段階評点】3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の改善方策
1　教育理念・目的・育成人材像	教育指導要領 入学案内 事業計画	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	学園の理念・目的・育成人材像を明確に定め、専門職業人教育を通じて社会に貢献する。 産官学協同教育を柱とし、産業界及び地域と共に学ぶ教育環境のもと、最先端の学びで自分の未来に挑戦するプロを養成している。	新専攻の導入、業界との連携強化で、ハイテクにしかない最先端の学び、新しい学び方を展開する。 また、教育連携企業を増やす。 （レバンガ北海道を運営する北海道バスケットボールクラブのプロeスポーツチーム【レバンガ★sapporo】とH30.4教育連携を締結）	3.0	3	3.0	新たな専攻課程の設置等、先駆的取り組みはこれまでも高い評価を得てきていると感じます。今後更に最先端企業とのコラボレーションを推進され、学生にとっても将来の選択肢を広げかつ、自己の目標設定にも大いに役立つ取り組みをすすめていっていただきたいと思います。 新専攻の導入により常に最新の情報を取り入れる。魅力ある学校の印象を受けます。 しっかりとした理念に支えられると感じました。	企業連携を推し進め、新学科、コース、専攻の開発を行う。
		1-2 学校の特色は何か	北海道の産業界とコラボレーションした『産学官協同教育』で、産業界で活躍するリーダーシップを発揮できる人材を養成し、地域創生に貢献することを目的とする。最先端の学びとしての新専攻の導入、新しい学び方としてのアクティブラーニング、模擬患者参加型教育の導入を推し進めている。		3.0	3	3.0		
		1-3 学校の将来構想を抱いているか	産学官協同教育は「産業界および地域と共に学び成長する」機会とし、道内企業連携先や恵庭市との関係強化を図り、業界・地域のニーズを教育に反映させ、リーダー育成プログラムを進化させている。		2.6	3	3.0		
2　学校運営	事業計画	2-4 運営方針は定められているか	学校運営方針は、滋慶学園グループ共通の5カ年計画に基づき、明確に定めている。運営方針の実現のため、月２回の学校運営会議、広報戦略会議、学校全体会議及び学科会議、部署会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し、実行する。	事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。計画遂行の確認のため、常にPDCAサイクルを廻していける学校運営をする。 運営会議は学科長クラスのミドルマネジャをメンバーに加えて、教育・広報と議題を分けて開催することで、問題を早期に発見し対策を立て、実行するプロセスを徹底していきたい。 【働き方改革】に応じた勤務体制の見直しを図る。	3.0	3	3.0	「働き方改革」に応じた勤務体制の見直しとしては、その手法は決して一律ではなく、職員個々人がそれぞれに充実した労働の対価として、如何に満足度を得られるかが改革目標となるよう設定できることが理想であり、優先順位を含めたPDCAサイクルを実践していくとよいのではないかと思います。 近年の問題となっている「働き方改革」により教員の皆様方の学生に対する教育と学校運営方針の両立のむづかしさが感じられます。 極めて緻密に計画され運営していると思います。	企業連携を推し進め、新学科、コース、専攻の開発を行う。 教職員が活き活きと、健康的に業務が出来る職場環境を創り上げる。
		2-5 事業計画は定められているか	学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。また、各部署ごとのリーダーも部署別事業計画と予算案を作成しスタッフ全員で共有する。 現在では特に校舎の老朽化や施設整備が必要なため、計画的な収支計画・事業計画を作成し、毎年段階的に設備投資ができるよう、学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定に努める必要がある。		3.0	3	3.0		
	事業計画	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	学校運営に関する意思決定機能は毎月2回実施される運営会議（決裁）が担っている。広報・教務・就職・事務局の責任者で構成された会議メンバーで、問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを構築している。目標志向性の高い組織運営が行われており、組織の全体像は、事業計画書の組織図に示されている。 教職員への通知は、毎日の朝礼・終礼、月1回の全体会議で遅れなく周知している。		2.6	2	2.6		
	就業規則	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	採用計画、人材育成の研修は、システムとして確立され、機能している。　採用は、学園本部が中心となり、採用広報、採用試験を実施している。採用にあたっては、採用基準の基、厳正に実施している。また、学校・チーム・個人の目標を明確した業務遂行し、その成果に対して賃金制度を設けている。常に、職場満足度の高い職場環境創りを意識している。		2.4	2	2.4		
	事業計画	2-8 意思決定システムは確立されているか	明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。各種の研修（教職員・講師）、会議（運営会議・学科会議・課別会議等）で周知し、運営上、生じる課題についても早めに解決できるように心がけている。		3.0	3	3.0		
	AS400 サイボウズシステム 口頭説明	2-9　情報システム化等による業務の効率化が図られているか	業務のマニュアル化とシステム化が推進され、学校に関する重要データ（学生・卒業生・教職員・広報・財務など）はAS400で一元管理されている。また、教職員個人の情報交換もサイボーズによる学内コミュニケーションシステムや掲示板、稟議、出張、外勤システム等を構築し管理している。		3.0	2	2.6		

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H29年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度（H29）自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の改善方策
3 教育活動	教育指導要領	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	教育課程編成委員会等を通して、業界の人材ニーズを反映したカリキュラム改訂を実施することにより、方向付けを行っている。また、キャリア教育の一環として学生のメタ認知力を鍛えるプログラムを構築し、教育の質的向上のためにFD活動を引き続き実践しているが、社会人基礎力の育成に関しては課題が残る。	共同研究施設・協力企業・自治体との連携をさらに強化する。また、入学前教育にも力を入れる。 国語力、コミュニケーション力強化に関しては、通常授業における工夫の他、正課外活動も視野に入れて取り組む。	2.6	3	3.0	より地域力を活かした取り組みを期待します。 医療系学科の合格率の低下に対して新たに国家試験対策を考える必要があると思われます。1年次からもっと国家試験に関連する授業を盛り込み教育課程の編成を考えるべきであると思われます。 貴校の教育指導要領のレベルの高さ感じますが、やはりコミュニケーション能力の低下の問題があります。資格取得や実践教育を中心としたカリキュラムの中で充分な時間が取れないのが現状ではないかと推測します。例として寮生活の中で異学年との自然な交流の場をの場を設ける、あるいは部活動やボランティア活動、課外活動やくらしの中での社会人交流の環境の場の設定をする等検討いただきたいと思います。 今や高校でも専門性を活かした様々な学校があり、専門分野に対する興味も低年齢化しています。このような傾向の中で選ばれるような学校であり続けて欲しいと思います。 AO入試の基準の見直しを検討して欲しい。 授業アンケートは実際に行っているかの実態がわかりにくい。 高度な専門性にもとづく教育活動がなされていると思います。	恵庭市との地域包括連携からヒントを得た内容を、学校教育に活かし、地域課題を解決する力を身につける。そのことで、【コミュニケーション力】【提案力】【企画力】【プレゼンテーション力】を向上させ、地域とともに成長していく教育を展開する。
		3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	実学教育・人間教育・国際教育の理念の下、各学科の養成目的と教育目標を定め、修業年限に応じた教育到達レベルを明確に設定し、教育活動を実践している。教育成果については進級判定会議や卒業判定会議で到達レベルの確認が行われている。		3.0	3	3.0		
	教育指導要領	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	カリキュラムは「適性を見つけ目的意識を育てるプログラム」、「プロに必要な態度・思考・倫理とそれらの基本となる知識を身につけるプログラム」、「専門的な技術・知識を身につけるプログラム」の3種類により体系的に構成されている。また、医療系では、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の各郡を指導要領上に可視化し、科目間のさらなる連携を図った。		3.0	3	2.8		
	教育指導要領	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	科目横断的な理解を促すためにも、科目間の連携を図るよう、かつ、学生の習熟度に適合するようカリキュラムマップにより適正な位置づけを行っている。		2.9	3	2.8		
	教育指導要領	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	目標設定、実践、評価のプロセスからキャリア教育の推進を図るため、産学官協同教育のプログラムを導入し、協同研究・開発ができる企業・施設先を増やす活動を継続した。各業界からも高評価を受けている。一方、実習指導者会議、教育課程編成委員会からは、国語力（読む、話す）、コミュニケーション力強化の必要性を指摘されている。		2.4	2	2.8		
	口頭説明	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	授業アンケートは、内容を再検討し、グーグルフォームを活用したものに切り替える。また、公開授業により、教員自ら授業改善の気付きを促す体制となっている。		2.6	2	2.8		
	教育指導要領	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	各専門分野の教員確保に尽力し、組織として教育ができるように配慮している。講師会議などで、教員と講師の連携により協力体制を構築している。		2.9	3	3.0		
	キャリアサポートハンドブック	3-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	学園グループ全体の方針に基づいた体系的なFD研修、分野ごとの教育部会にての研修を実施している。また、キャリア教育カウンセラー研修を受講し、その資格者を順次、増やすことができている。年2回の職業実践専門課程認定の教員研修会への参加を行い教員の資質向上に努めた。		2.9	3	3.0		
	教育指導要領	3-18 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準は学則、細則に示されているとおり明確である。また、評価の方法に関しても、シラバスに記載し、学生に公開している。		3.0	3	3.0		
	資格取得一覧表	3-19 資格取得の指導体制はあるか	各学科にて前年の反省をふまえ国家資格対策を展開した。全学科において、全国平均を上回ったが、入学学生の状況を考えると、より早期からの対策が必要である。医療系国試対策委員会にて、学科間にて成功事例を共有し、問題点を検討する体制が整っている。		2.9	3	2.8		

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H29年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度（H29）自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の改善方策
4 教育成果	就職資料	4-20 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	平成30年3月末現在、求職者就職率が99.0%の就職内定率となった。また就職希望者率は、現在82.1%となっており、専門就職率は98.6%となった。 国家試験受験前までに卒業認定されない学生が増える傾向があり、就職活動と勉強との両立が課題となっている。それに伴う就職活動の長期化も、懸念されている。	各種認定資格や国家試験不合格者に対しては、支援を継続する。 「退学させない」ではなく、誰もやめない学校、退学したいと言い出さない学校を目指す。 また、転科転校を出さないようにする。そのために、入学前から保護者、また、高校側の考え方も変化していることから高校との連携をさらに強化する。 自ら学ぶアクティブラーニングの実践により、教育の質を高め、活気ある学校を目指す。	3.0	3	3.0	就職率や資格取得の実績に限らずどの取り組みも素晴らしいものと感じました。 就職率の高さは学校の強みなので今後もこの高さを維持・向上できるよう学校のサポートをお願いします。 卒業生・講師の先生方とのパイプ作りの広がりに期待します。 卒業生の動向・状況把握をする為にもっと同窓会活動を活発化する必要があると思われます。	安心してしっかりと学生が学べる（資格取得、就職内定に直結する）教職員の教授力・コーチング力の向上を図る。
	資格取得一覧表	4-21 資格取得率の向上が図られているか	毎年、前年の振り返りとともに、医療系学科では、時期ごとの目標設定、医療系以外の学科では、各検定試験ごとの目標合格率設定を行っている。また、正課外の補習、個別対応をおこなっている。入学時の基礎学力テストにより、低学力者の早期発見とサポートを実施しているほか、全学科で自己学習の早期習慣化に取り組んでいる。医療系国家資格の取得については全学科において、昨年よりも向上し全国平均を上回った。		2.6	3	3.0		
	事業計画	4-22 退学率の低減が図られているか	退学率については、目標を達成している。一人ひとりの可能性を最大限に開花させるために、転科転校も視野に入れ、本人の新たなキャリアプランをサポートしている。 29年度の退学者率は2.0%であった。		3.0	3	3.0		
	卒業生紹介ツール	4-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	業界と学校との強固なパイプ作りに、卒業生の就職先訪問を積極的に実施しているが、研究、受賞、活躍の状況把握にまでは至っていない。		2.4	3	2.8		
5 学生支援	キャリアセンター資料	5-24 就職に関する体制は整備されているか	就職は、キャリアセンターと教務が一体となって就職支援にあたっている。各学科の就職活動の時期を意識し、就職講座や一部の学科では企業合同説明会などを開催することにより、就職意識を醸成している。また、状況に応じて模擬面接を実施して、早期就職内定の向上に努めている。 キャリアセンターは各業界に訪問し、求める人材や業界動向などを察知し学校にフィードバックする体制を取っている。	学生の就職活動状況は、常にキャリアセンターが集約し情報のデータ化に努めている。 求人情報においても、各学科ごとに求人情報をリスト化し学生に公開している。 経済面の指導に関して教職員の更なる理解が必要であり、返還に関する意識指導体制が必要である。	3.0	3	3.0	学科間での活動の差がなくなるようにどの学科の同窓会も活動することを期待します。 学園の約半数が奨学金利用者であると知り驚きました。今後ますますサポートの充実が必要になると考えます。 SNS等による学生の心理的な不安を取り除き健康的な生活を維持するためにもカウンセラー等バックアップ体制が整備さえているのは安心感があります。 支援体制がしっかりと整っていると思います。	奨学金を利用している学生の、就職条件から返還までを一連の計画のもと、教務ーキャリアセンターー学生サービスセンターとチームを組んでいる今の支援体制を継続する。
	キャリアサポートハンドブック	5-25 学生相談に関する体制は整備されているか	カウンセラー（臨床心理士）が勤務するSSC（Student Survice Center）が整備されている。全学科の入学前保護者説明会にて、SSCを紹介しリーフレットを配布している。		3.0	3	3.0		
	ファイナンシャルアドバイス資料/募集要項	5-26 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	学園全体の在校生51%が日本学生支援機構の奨学金利用者であり公的支援制度への相談体制ができている。 各学科においても年に1回保護者会を実施し情報の告知と案内の徹底を図っている。また、家庭の状況に応じた相談も行っており、学費納入方法についても柔軟に対応している。職業実践給付制度については、再更新申請により学費サポートの継続を図る。		3.0	3	3.0		
	口頭説明	5-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	健康診断をはじめとして学校保健法に規定するコンプライアンスは遵守しており、特に医療法人慶心会による健康管理体制が徹底され、再検査受診率は90%を超えた。		3.0	3	3.0		
	教育指導要領	5-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか	学生主体の各行事には実行委員会が組織されているほか、20種以上サークルが活発に活動している。学校として、部活動をキャリア教育の一環として位置付けている。ほぼ全教職員が顧問としてかかわるなど、万全の支援体制を整備している。		3.0	3	3.0		
	学生寮紹介パンフ	5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	寮については男子寮1棟、女子寮1棟、男女共用寮2棟を有しており、地方からの学生にも対応できる体制となっている。寮には寮長が在駐し健康管理、生活指導を担っている。		3.0	3	3.0		
	口頭説明	5-30 保護者と適切に連携しているか	各学科での保護者会は入学前に1回、入学後各学科学年ごとで随時、開催をしている。保護者説明会による学習面、就職面、国家試験、海外研修等の報告を実施の他、必要に応じ、随時、個別保護者相談により各々の問題解決にあたっている。		3.0	3	3.0		
	HP	5-31 卒業生への支援体制はあるか	本校では学校全体としての同窓会を組織しており、各学科において勉強会等の実施をしている。しかし、学科間での活動の差があることは否めない。		3.0	3	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H29年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度（H29）自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の改善方策
6 教育環境	口頭説明	6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	建学の理念のひとつ、実学教育を謳っている本校であるため、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが必要不可欠である。老朽化した実習室、実習資機材は優先順位の高いものから計画を立てて整備または新規購入する。	企業連携先の更なる充実を図る。 国際教育の一環としての研修の意味を広義でとらえ、海外の大学や企業との協同研究等も考える必要がある。	2.7	2	2.8	防火管理者として恵庭市地域住民との連携もあり非常に良いと思います。もっと恵庭市からの発刊物等によるアピールをしてはどうでしょか。 相互協力協定に基づく実践的な取り組みに期待してます。 海外研修に関しては毎年度進展があまりないと思われます。現状の経済的事情が大きく関わっていると思われます。	新学科、コース、専攻の開発に伴う実習先確保と、学内実習室の準備を進める。
	口頭説明	6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	学外実習については、充分な教育体制を整備しており、学科ごとに企業と連携した実習が計画されている。 海外研修は、学科により最低遂行人数に到達せず昨年度は1学科のみの実施となった。今後は海外研修の在り方を検討するとともに、姉妹校や学科間で合同研修できるようなプログラム等も視野に入れた計画を考える必要がある。		2.3	3	2.4		
	防災訓練資料	6-34 防災に対する体制は整備されているか	学園が所有する敷地・施設が広大なため、新たに消防計画書を作成し、統括防火管理者と各敷地毎（3区画）の防火管理者を選任した。 年に1度消防本部、環境整備関連会社による防災訓練を実施。防災教育にも力を入れている。また学生、教職員ともに災害時の安否確認システムを各校で有し訓練を行っている。防災、火災についてはその意識を高めることから訓練を実施し避難手順や方法を指示し実施している。また学生、教職員、講師へ・防災訓練の映像化（DVD）等も実施しており、防災の意識を高めている。 AEDは設置しており、定期的な救急時における知識の習得と意識付け研修も行っている。		3.0	3	3.0		
7 学生の募集と受け入れ	募集要項	7-35 学生募集活動は、適正に行われているか	学生募集活動は、専修各連の定める募集基準に則り、AOエントリーは6月から、出願は8月からその他の受験方法による出願は10月から受け付けている。募集要項に関しては、入試制度、奨学金制度、学費に関して受験生にとってわかりやすい掲載方法を実施している。	業界のトレンドに先駆けてドローンやeスポーツ、プロジェクションマッピング、先端医療など「新しい仕事」を学ぶ専攻がスタート。新実習室などWEBやSNSを通じて情報を常に発信し、ハイテクならではの価値を届ける。 また、北海道メディカル・スポーツ専門学校と義肢装具士学科とが連携しパラスポーツの発展に寄与する。	3.0	3	3.0	専門学校入学希望者が減少している中、教職員が必死に頑張っている様子が伺えます。今後学校がより良い方向へ進展できるよう期待しています。 ドローン、eスポーツ、プロジェクションマッピング等最新のトレンドに対応しており非常に興味深いです。 この先卒業生が業界で活躍し入学式や就職する学生への希望となってくれることを願います。	2030年を見据え、学科開発を推し進める。
	入学案内／募集要項	7-36 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	教育の成果はHPや媒体を通じて広く発信している。また、プロゲーマーやドローン技術者など、社会の注目度が高い「新しい仕事」の魅力をメディアやWEB、SNSを通じて発信することができた。また、仕事の魅力をニュースソース「VISION」を発刊し、高校生に将来像を早期に構築してもらう取り組みを行った。		2.4	3	3.0		
	学則	7-37 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしており、入学選考委員会を設け入学試験の判定会議を適正かつ公平な基準のもとに実施している。		2.9	3	3.0		
	募集要項	7-38 学納金は妥当なものとなっているか	学納金は適正かつ妥当なものと考えており、その納付金額、方法に関する情報も適正に行っている。		3.0	3	3.0		
8.財務	財務資料	8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	キャッシュフローの形態を重視し、収入と支出のバランスはとれており、貸借対照表の翌年度繰越収入超過金はない。設備投資も計画的に行われており負債における問題はない。	継続的に計画的な環境の補修及び改修をすすめていく。	3.0	2	2.8		新専攻に関する学内実習室の準備を進める。
		8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	校舎の老朽化や施設整備が必要なため、計画的な収支計画・事業計画を作成し、毎年段階的に設備投資ができるよう、学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定に努めるには支出を削減するだけではなく学納金の回収率アップに重点を置かなければならなかったが、目標の回収率には至らず、次年度以降も課題とする。		3.0	3	3.0		
		8-41 財務について会計監査が適正に行われているか	理事会においての内容精査し、監事による監査と外部の監査法人である公認会計士の監査を行っている。		3.0	3	3.0		
		8-42 財務情報公開の体制整備はできているか	「財務情報公開規程」を作成し財務情報の公開にあたって必要最低限の項目を定め公開している。具体的な事項は「情報公開マニュアル」を作成し「財務情報公開規程」により管理、運営を行っている。		3.0	3	3.0		
9.法令等の遵守	組織図	9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準の変更等に伴う申請手続き等を迅速に対応できる体制づくりを行っている。教員間での法令・基準の遵守に対する教育または研修を継続的に実施している。 また、監事による毎年の監査によりコンプライアンスの実施状況についてチェックしている。	制度、法規の変更に伴い、コンプライアンスを重視した新たなチャレンジと変革による専門学校の確立を行っていくことが重要である。	3.0	3	3.0		制度、法規に関する情報収集力強化する。
	ITリテラシー資料	9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	日本プライバシー認証機構より個人情報保護規程運用状況監査を受け、学生、保護者、企業、講師、入学希望者についての個人情報保護について、規定に則り運用を行っている。また、スキル向上のための取り組みとしてITリテラシー資格の取得や研修会を実施している。		3.0	3	3.0		
	本会資料	9-45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	私立専門学校等学校評価検討委員会の基準を元に、平成26年から、自己点検・自己評価ついての方針、実施を開始し、委員会の形成と外部評価を実施している。 学校関係者評価、並びに教育課程編成委員会での意見を充分に反映し、新学校種への取り組みと今後の高等教育機関の制度変更に関しての準備を行っている。		3.0	3	3.0		
	HP	9-46 自己点検・自己評価結果を公開しているか	毎年自己点検・自己評価を実施し、HPによる公開は既に実施している。 自己点検自己評価結果をもとに、重点課題について学校関係者評価員と学校づくりの検討を行い、更なる評価の向上に努めている。		3.0	3	3.0		

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H29年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度（H29）自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の改善方策
10.社会貢献	プロジェクト実績資料	10-47 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	恵庭特産物食品加工プロジェクトによる地場産小麦「ゆめちから」を用いたパンの商品化の継続研究や、子育て支援施設「フーレ恵み野」での体験教室「チャレンジキッズ」の開催など、ボランティアとして関わることで、地域と共に人材育成を効果的に行っている。	地域のボランティアに積極的に参加し、【提案力】【企画力】【プレゼンテーション力】を向上させ、地域とともに成長していく学生教育と、地域に貢献できる人材育成とをしていく。	3.0	3	3.0		恵庭市との地域包括連携からヒントを得た内容を、学校教育に活かし、地域課題を解決する力を身につけることを、社会貢献に結びつける。
	口頭説明	10-48 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	北海道の主要マラソン大会でAED隊や救護スタッフとして大会を支えている。また、授業の一環として取り組むもの、課外活動として自ら取り組むもの等があり、多くの活動を通じて積極的に社会貢献している。		3.0	3	3.0		
11　国際交流	口頭説明	11-49 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	日本語学科から学内やグループ校への進学実績あり。 近年渡航費用の捻出が困難な学生が多いこともあり、海外研修そのものの意義を見直すことが必要である。 学内では、日本語学科と他学科とのコラボレーション授業や合同レクレーションなど、国際交流を積極的に行っている。	本学園の理念である国際教育の意味を広義でとらえ、海外の大学や企業との協同研究等も考える必要がある。	2.1	2	2.0	国際交流において、新たな進展を期待します。	海外で活躍している講師陣から特別講義を開催することに力を注ぐ（そのことで、国際的視野を持つことの動機づけをする）。